

私の家の本棚に、長年居座っている本がある。引っ越しをしたり、大掃除をしたりして本を整理する中で、今まで手放せないで本棚の片隅に残っている本だ。私の人生を支えてくれているそれらの本の中から1冊紹介しよう。

「大きく考えることの魔術」(D.J. シュワルツ著 実務教育出版 1986 第26版)

「物事を大きく考えるのも小さく考えるのも、考える労力にはあまり変わりはないが、前者は、後者に比べると、比較にならないくらいの収穫をもたらす。」

この本は、大学生・院生の頃、私には珍しく何度も読み返した本だ。重要だと感じた部分に線を引き、感動した部分のページの角を多数折ってある。私を勇気付け、私の考え方を力強く指南してくれた本である。

自分に自信のある人は、この本は不要かもしれない。しかし、「進路資料」巻頭言にも書かせてもらったが、新三年生の志望校検討会において、東京大学、京都大学等の難関大学を目指している太高生がいる一方で、「自分にはそこまで力がないのではないかと謙虚な姿勢を保っている生徒もいると聞いている。一度限りの人生、是非、自分を信じ、「夢は大きく！志は高く！」、高い目標に向かってチャレンジして欲しい。

この本では、「自信をつくる5つの行動」として、1、前に座るように心がける。2、じっと目を見る習慣をつける。3、25%速く歩く。4、すすんで話す。5、大きく微笑む、が紹介されている。著者は、十三章に渡り私たちの態度と熱意に新しい方向を与えようと試みてくれている。大学生・院生の私にとっては衝撃的な本であった。

また、「大きく考えるために忘れてはならないこと」として、1、自分を過小評価しないこと。2、大きく考える人に特有の言い回しをすること。(大きくて、明るくて、元気の良い言葉を用いる。) 3、あなたのビジョンを伸ばすこと。(どうなっているかではなく、どうなり得るかを考える。) 4、あなたの仕事(勉強)について大きな視野をもつこと。5、些細なことにこだわらないこと(注意を大きな目標に向けること)としている。何度も読み返すことで、少しずつ体に染み込んでくれると思う。

この本は今でも入手することができる。私にとって、この「本との出会い」が、心のエンジンに火をつけてくれ、自分の骨格をつくり、現在の心の支えになってくれているように思う。

君たちも、人生に影響を与えるような、君たちなりの「本との出会い」がきっとあると思う。それらの「本との出会い」を大切に、そして「本との出会い」を楽しみにして欲しい。